

# ふるさと探訪

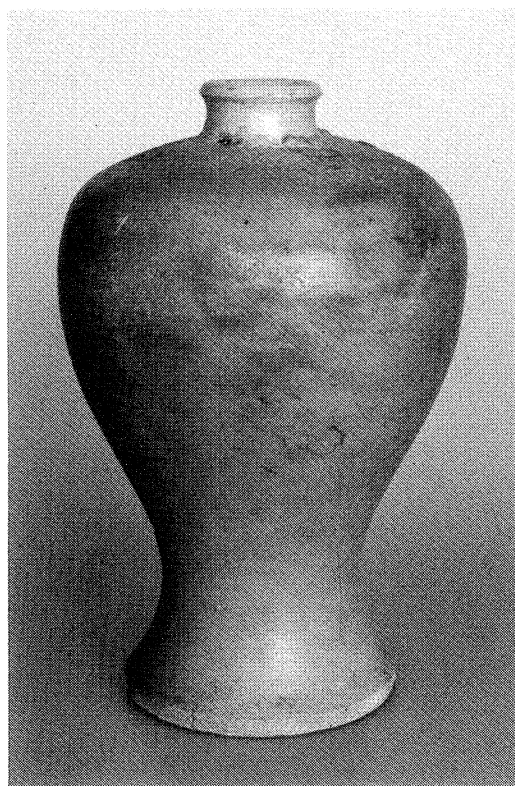
県指定重要文化財(考古資料)

## 大榎遺跡出土品 — 瓶子 —

所在地 伊達郡桑折町字陣屋十二番地 旧伊達郡役所内  
所有者 桑折町  
所有者の住所 伊達郡桑折町字東大隅十八番地



灰釉梅花唐草文瓶子(高さ二十七センチメートル、底径十七センチメートル)



灰釉瓶子(高さ三十センチメートル、底径十四センチメートル)

伊達氏の居城赤館(西山城)南麓の県指定天然記念物「万正寺の大カヤ」付近から出土したものである。明治十年灰釉梅花唐草文瓶子が発見され、中に炭と骨片が入っていたため、観音寺境内に埋納された。昭和二十六年には、灰釉瓶子、片口鉢を蓋にした骨片の入った甕が発見された。この時灰釉梅花唐草文瓶子も再発掘された。

灰釉梅花唐草文瓶子は、肩及び口縁の一部が意図的に欠けていたが、昭和五十六年、石膏により復元された。やや肩の張った丸肩で、なだらかに底部に及び、均整のとれた形を呈している。肩から体部にかけて、梅花文と唐草文が浅く印せられ、その上にオリブ色の釉がかけられている。

灰釉瓶子も、口縁部が欠損している。強く肩が張り、体部下半はくびれ、底部に向かって開く。全体に明るい灰白色の薄い灰釉がかけられ、焼きはきわめて良好である。

灰釉梅花唐草文瓶子は、十四世紀、灰釉瓶子は十三世紀の瀬戸産で、佳作であり本県出土の中世陶器中の優品である。

出土地は、伊達氏の菩提寺である伊達五山の観音寺に近接している所でもあり、本県中世史上重要な意義をもつ考古資料である。

郷土の文化財